

平成30年度豆類振興事業助成金(試験研究)の成果概要の要約

⑪課題:能登大納言小豆の開花期の生育環境改善技術の開発(29～元年度)

代表者:石川県農林総合研究センター農業試験場 主任研究員 岡田憲一郎

目的

能登大納言小豆の土壌過湿などの環境要因と落莢、子実肥大不足の関係を解明して、収量の安定化と大粒割合増加のための技術開発を行う。

成果

①能登大納言小豆の落莢、肥大不足の要因解明

- ・開花期の過湿により葉色値が低下し、枯死する下部が発生したが収量および生育に及ぼす影響は判然としなかった。
- ・能登大納言では、遮光率が高い程、収量、莢数、着莢率、一莢粒数が減少した。着莢率は京都大納言でも減少し、いずれの品種においても前半に着蓄したものが落莢しやすかった。
- ・連作年数が多い圃場ほど根粒着生量が少なく、百粒重が少なくなる傾向にあった。

②異常気象に対応した能登大納言小豆の収量安定化と大粒割合増加のための技術開発

- ・根粒菌接種区での根粒着生量・根粒活性の増加は見られず、また、根粒菌接種の有無に関わらず、過湿処理により根粒着生量が大幅に減少した。

根粒菌接種が根粒着生に及ぼす影響

試験区		根粒数	根粒重	相対ウレイド値
根粒菌接種	過湿処理	(個/株)	(g/株)	(%)
有	有	9	0.00	-
有	無	1514	1.31	55.6
無	有	8	0.00	-
無	無	1882	1.26	54.0